

2025年（令和7年）  
学校法人監事研修会

## 教学監査とは

大学共同利用機関法人  
情報・システム研究機構 監事  
芝浦工業大学 元学長

村上雅人

## 講演者の略歴

- 1979年 東京大学工学部卒業
- 1984年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）
- 1984年 新日本製鐵 第一技術研究所
- 1994年 国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研究所
- 2003年 芝浦工業大学 工学部教授
- 2008年 芝浦工業大学 副学長
- 2012年-2021年 芝浦工業大学 学長 監事の常勤化 監事3名体制**
- 2021年-2023年 芝浦工業大学 学事顧問
- 2021年- 岩手県DXアドバイザー、ウニベルシタス研究所顧問
- 2023年- 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 監事**
- 2023年- 日本技術者連盟 会長
- 2024年- 大学基準協会 監事**
- 2025年- 国立大学法人 監事協議会 代表世話人**
- 2020年-2024年 文科省 知識集約型社会を支える人材育成事業 委員長
- 2015年-2024年 文科省 私立大学等改革総合支援事業 副委員長
- 2025年- 文科省 地域中核・特色ある研究大学強化事業 (J-PEAKS)  
伴走支援チーム 次席サポートー

## 学校法人\*における監事のミッション

**公共性及び運営の適正性の確保を通して  
大学の価値を向上させる**

\*学校法人：私立学校の設置・運営を行う法人であり公益法人（非営利法人）  
私立学校法（昭和24年）の定めるところにより設立される

## 海外大学における監事のミッション：

To enhance university values by providing advice and insight  
大学の価値を向上させるため、高い見識のもとに助言や提言を行う

**キーワード：大学の価値向上**

**そもそも大学の使命とはなんだろうか**

# 大学の使命とは

- 1 教育
- 2 研究
- 3 社会貢献

イノベーションの創出だけでなく、教育研究を通して人材を育成し、社会に輩出することも重要な社会貢献である

※私立大学の存在意義として、卒業生が社会で活躍しているかどうかも問われている

## 私立大学の学長としての経験

保護者会からは大学の授業料が高すぎると不満も聞くが、学生が希望の就職先に決まったとたんに、この大学を選んで本当に良かったと感謝される

# 教学監査の位置づけ

## 監事監査

- 1 業務監査
- 2 会計監査

### 1 大学における業務監査

- 1. 1. ガバナンス・管理業務等に関する監査
- 1. 2. 教学監査

**教学:** 大学の本来の使命に基づく業務

教えと学び

**teaching and learning**

# 教学マネジメント

management of teaching and learning

2020年中教審大学分科会が指針を提示

世界水準 (グローバルスタンダード) 教育

global standard education

「大学が学生に何を教えたか」 What is taught  
から

「学生が大学で何を学んだか」 What is learned  
を大切にするパラダイムシフト

「教え」 中心から 「学び」 中心の教育への転換

## 歴史的背景

1980年代の（経済分野での）グローバル化の波  
rapid globalization in the 1980s

国際社会での国の優位性は何によって決まるか

What determines the superiority of a country in a highly competitive global society?

→ 国を支える人材

human resources who support the nation

その育成が重要

Fostering human resources is essential

→ 高等教育の重用性は世界が認識

The importance of higher education has been recognized by world leaders

1990年代は教育のグローバル化が進展

## イギリス England

国を再生するためには教育の充実が必要

Education is the key to the revitalization of UK.

## 米国 USA

先端分野で日本に勝つための重要政策:教育

To compete with Japan in cutting-edge technologies, education is must.

高等教育（大学・大学院）の評価が高い

## 日本 Japan

教育こそが経済発展の鍵であった

Education was the firm foundation for its economic growth.

ただし、日本の大学教育は評価できない

Ezra Vogel “Japan as Number One”

難関大学に入学することが重要視され、大学入学後の教育には重きが置かれていません。

教育改革のベンチマーク

**1999年ボローニャ宣言 The Bologna Declaration**

ヨーロッパ29カ国の教育大臣による宣言

1990年代 教育のグローバル化にともなって、多くのヨーロッパの学生がアメリカの大学を選択

ヨーロッパの大学の再生計画

Reform of European universities

アメリカの大学への敗北に対する反省と再起



**教育の質保証の重要性**

「大学が学生に何を教えたか」ではなく

「学生が何を学んだか」を重要視するパラダイム転換

世界水準

「学生が大学で何を学んだか」

**学修成果 Learning outcomes**

学習: 知識や技術を習うこと 学修: 知識や技術を学び身に付けること

→

**高等教育の質保証**

Quality assurance of higher education

教育目標（人材育成目標）

定性から定量へ

**卒業時に備えるべき能力（学士力）**

Graduate attributes

を明確化し、これら能力を学生が獲得できたかどうかを検証する

→ DP ディプロマ・ポリシー

卒業認定・学位授与方針

卒業時に身に付けていることが期待される能力 (**工学分野の世界基準**)

**学士力 Graduate attributes** (ワシントン協定: Washington accord)

2005年に日本技術者教育認定機構 (JABEE) がワシントン協定に正式加盟

- (a) 地球的視点から**多面的に物事を考える能力**とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解 (**技術者倫理**)
- (c) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
- (d) 該当する分野の**専門技術**に関する知識とそれらを**問題解決**に応用できる能力
- (e) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するための**デザイン能力**
- (f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等の**コミュニケーション能力**および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
- (g) **自主的、継続的に学習できる能力** (**生涯学習能力**)
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 (**プロジェクト遂行能力**)
- (i) チームで仕事をするための能力 (**チームワーク力**)

# 大学で身に付けるべき能力（文理共通） 読み、書き、そろばん（英語の3R）

## 読み (reading)

文章を読んで理解できる能力

→膨大な文献から学ぶことができる（本、ジャーナルなど）

## 書き (writing)

読み手が理解できる文章を書ける能力

→自分の考えを文書で伝えることができる（論考など）

## そろばん (arithmetic)

足し算、引き算、掛け算、割り算が精確にできる

→客観的データである数値をもとに

いろいろな事象を分析できる（data science）

## 自主学修 (self learning) を可能にする基本

# 大学で身に付けるべき能力（文理共通）

- 論理的思考力

**Critical thinking**

**意見 (opinion) と事実 (fact) を峻別できる**

**(数値データなどの)客観的根拠に基づき**

**問題点を明確にし**

**状況を把握、解析、分析したうえで**

**問題解決するための手法を提案できる**

- 情報リテラシー (information literacy)

**基本的なソフトウェアを使いこなすことができる**

**文書作成、プレゼンテーション、表計算、AI**

**情報倫理 (information ethics) も大事**

# 2008年 中央教育審議会答申 「学士課程教育の構築に向けて」

## 大学に求められる3ポリシー (DP, CP, AP) の策定

DP: diploma policy ディプロマ・ポリシー  
卒業認定・学位授与方針 (学士力の獲得)

CP: curriculum policy カリキュラム・ポリシー  
学部・学科における教育課程の編成・実施方針

AP: admission policy アドミッション・ポリシー  
入学者の受入方針

CP: カリキュラム・ポリシー

## 教育課程の編成

DPに記載されている学士力を育成するために  
どのような科目を配置しているか

例) 学士力

(h) プロジェクト遂行能力

与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

(i) チームワーク力

チームの仲間と協力して働く力

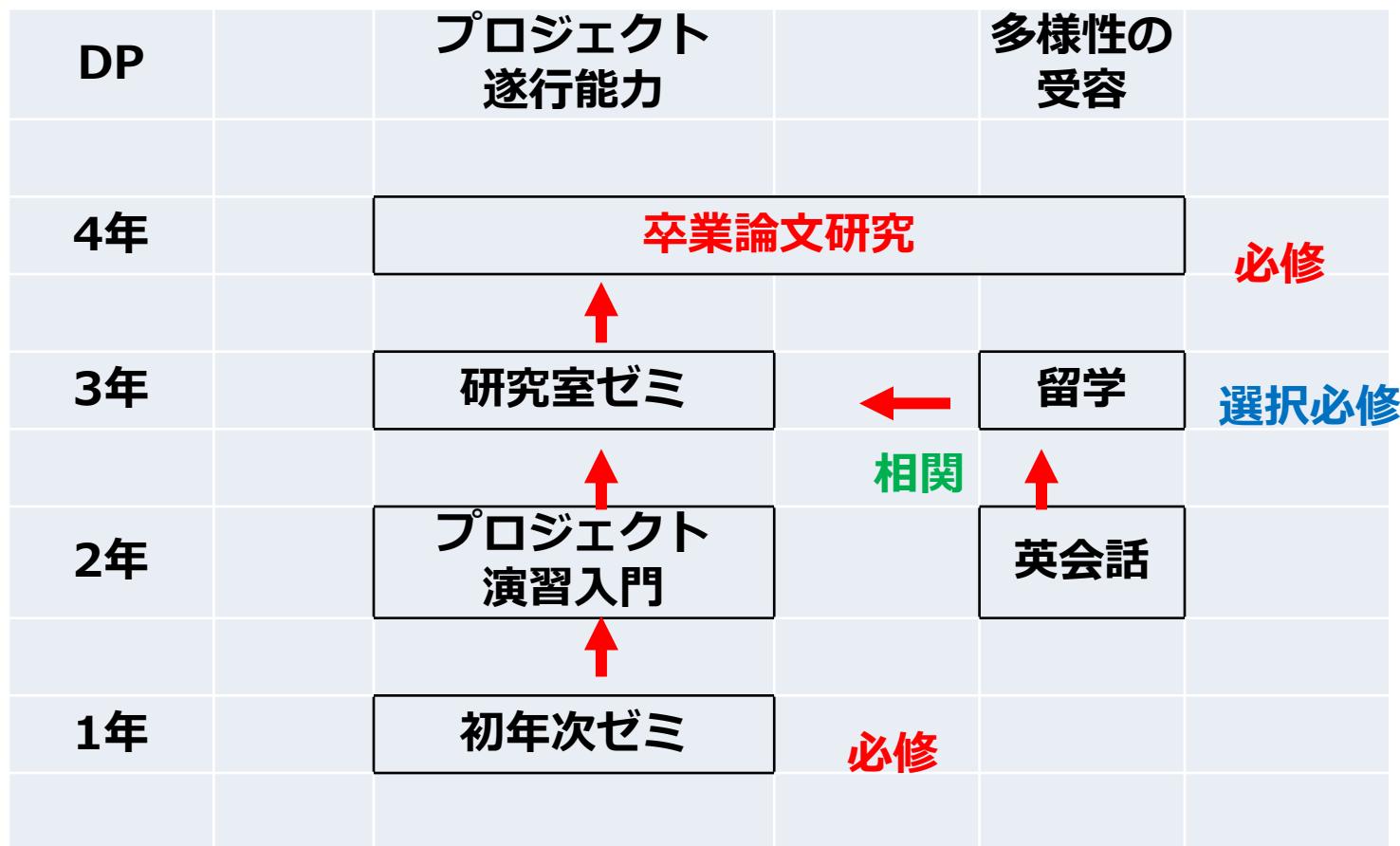
科目名：開講時期と時間

カリキュラムマップ curriculum map

DPとして掲げた能力を育成するための

標準的なモデルカリキュラムを提示

## カリキュラムマップの例



DPにおいて提示した学士力を達成するために、学科として推奨する履修すべき科目の学年ごとの配置と相関を示した図

講義科目においては、つぎのシラバス (syllabus) を整備するのが基本

シラバスへの記載事項

**授業の目的と到達目標:**

当該授業において、何を学び、どのような能力を身につけることを目指すのか

**授業計画:**

各回の講義内容やスケジュールが具体的に記載

**成績評価方法と基準:**

どのように成績が評価されるのかの基準を明記

**教科書・参考文献:**

授業で使用する教科書や参考となる文献

**履修上の注意点:**

履修要件や、予習・復習など授業時間外の学習に関する指示

**担当教員の連絡先:**

質問や相談のための連絡先やオフィスアワ

シラバスは

教員と学生の間における授業内容に関する「**契約書**」であり

大学が社会に対して教育活動を説明する責任を果たす資料となる。

シラバスは冊子で配布されたり、**大学のウェブサイトで公開される。**

当該科目の**明確な到達目標**に関しては

可能であれば Can-doリスト (○○できる) を作成することが望ましい

具体例)

○年月日を英語で表記できる

2025年10月11日 October eleventh in twenty twenty-five

○Pythonを使って素数を求めるプログラムを作成できる

○東南アジアの国名と、その公用語を挙げることができる

**成績評価方法**についても基準などを明示

毎回の小テスト15%, レポート25%, 中間試験25%, 期末試験30%

大学によっては「シラバス作成」を教員研修の一環として実施している

大学（ならびに高校で）注目を集めている教育手法

**アクティブラーニング** (active learning: 能動学習)

教員が一方的に話す座学（受動学習）ではなく

学生が能動的に学習を進める手法

自動車の構造や動く原理をいくら学んでも運転できない

実際に実車して運転を学ぶ必要がある

アメリカの多くの大学に掲げられている言葉

What I hear, I forget

聞いたことは忘れる

What I see, I remember

見たことは覚えている

What I do, I understand

やったことは理解する

Confucius 孔子

# 日本の大学における教育の特徴: 卒業論文研究!!

世界に誇れる**究極のアクティブラーニング**  
ドイツで生まれ、アメリカで発展し、日本で花開いた  
(ドイツ、アメリカでは大学の大衆化とともに衰退)

研究を通して、教員も学生も成長する  
**フンボルト理念に基づく教育**  
多くの学生が卒業論文研究で成長を実感  
What I do, I understand.

一方で  
**悪しき徒弟制度として産業界から非難されている**  
教育の趣味的研究の下働きを無給でやらされている

→ 卒論ではなく、授業科目だけで学位が取得できる制度の採用を産業界が提唱

## 卒業論文研究の問題点

**教育内容と成績評価が教員に委ねられている**

学生にとっては（配属先による）運不運が大きい  
→ いかに教育研究を標準化するか

ひとりの教員の恣意ではなく、学科や大学としての共通指標に基づく指導ならびに評価が必要

卒論研究を代表とするアクティブラーニングにおける  
**育成すべき能力と評価基準の明確化**

→ ルーブリック (rubrics) の導入

# ループリックの例

## チームワーク力

(レベル2(c)以上が合格: A, B, C, D)

Exemplary level 4	Proficient level 3	Threshold level 2	Unsatisfactory level 1
非常に優れている	優れている	基準には達している	基準に達していない
<b>Respectfully listens, discusses, asks questions and helps direct the group in solving problems.</b>	<b>Respectfully listens, discusses and asks questions and tries to argue with teammates in solving problems.</b>	<b>listens, discusses and asks questions.</b>	<b>Does not listen with respect. Blocks group from reaching agreement.</b>
メンバーの意見に耳を傾け、議論に積極的に参加してチームが問題を解決するのに貢献している	メンバーの意見に耳を傾け、議論に参加し、チームの問題解決に協力している	メンバーの意見を聞き、議論には参加している	メンバーの言うことを聞かず、他人の考え方を受け入れない。チームが問題解決する際の妨げとなる

# ルーブリック (rubrics) とは何か

- 1 ルーブリックは学生の成績レベルを明確に規定する評価基準である
- 2 ルーブリックは、学生に対しどのように行動をとればよいかの具体例を明示するとともに、その評価基準となる
- 3 ルーブリックの作成過程で、教員は学生に対し、どのような能力の育成を期待しているかを明確化できる

Thom Markham, Project Based Learning Handbook Second Edition, Buck Institute of Education, 2003.

## 2012年 学長として卒業論文研究にループリック導入を宣言

現場の教員からは猛反発

面倒くさい 意味はない 今まで通りで何が悪いのか

いざ導入したら現場教員から高評価

ループリック作成過程で教員どうしの理解が深まる

→ 他の科目でもループリック導入へ

学生からも高評価

卒論研究で何を目指せばよいかが明確になる

→ 教員の恣意による成績評価が無くなる

学科によっては

企業の方など外部人材に評価依頼

学生の自己評価も導入

教員、学生、外部評価を比較すると、学生による

自己評価がもっとも低い

# 大学の科目配置で学生にとって切実な問題

## 必修科目の妥当性

卒業（進級）するために、必ず履修し、単位を修得する必要のある科目

DP（教育目標）の達成に、なぜこの科目が必修なのか  
大学には説明責任がある

シラバスが整備されているか

学修目標が明確か

成績評価基準が明示されているかまた妥当か

海外と異なり、日本において留年すると多額の費用

（年間授業料 + 設備費など）が必要

海外では、当該科目の履修料だけ払えばよい

2023年 G大学医学部

即興演劇授業（必修科目）  
大量留年（24名）

学生からの指摘

- 1 なぜ即興演劇が医者養成のための必修科目なのか
- 2 採点基準が不明確である

同様の大量留年は他大でも報告されている

大学側の問題は

シラバスが不整備であり、評価基準も明示されていない  
担当教員に成績評価が一任されている

一方で、気骨のある教員であり

合格点のとれない学生が悪いという意見もある

# 大学教育の課題

「学問の自由」 academic freedom のはき違え

日本国憲法第23条

「学問の自由は、これを保障する」

研究・講義などの真理探究のための活動において  
他者からの干渉や制限を受けない自由

よって講義内容は担当教員が自由に決め

成績評価は教員の裁量に委ねられる

→ 学生の満足度低下の原因

現状では、教員がシラバス不記載（記述が不十分）  
であっても罰則はない

私立大学では教育改革が進んでいる

**学生が集まらなければ経営が成り立たない**

シラバスについても多くの大学で整備され  
DP（学位授与方針）, CP（教育課程編成指針）の整備  
カリキュラムマップ（ツリー）の提供も進んでいる

ただし、形式的な対応（やらされ仕事）  
となっている場合も多く  
真の教育改革ならびに教育の質保証は道半ばである

**教学改革こそが大学の価値を向上させる源泉**  
→ **教学監査の重要性**

# 教学監査にあたって参考すべき資料

- 1 大学認証評価
- 2 大学ポートレート
- 3 私立大学等改革総合支援事業
- 4 全国学生調査
- 5 入口と出口管理  
　　入学者選抜と就職実績

## 1 大学認証評価

**教育・研究の質保証をするために行われる評価制度  
2004年度（平成16年度）より開始**

**大学は、設置から7年ごとに  
文部科学大臣が認めた認証評価機関※による  
評価を受審する（学校教育法第109条）**

※ 認証評価機関

大学基準協会（公益財団法人）  
日本高等教育評価機構（公益財団法人）  
大学・短期大学基準協会（一般財団法人）  
大学改革支援・学位授与機構（独立行政法人）  
大学教育質保証・評価センター（一般財団法人）

## 評価対象項目 大学基準協会の例

- 1 理念・目的
- 2 内部質保証
- 3 教育研究組織
- 4 教員・学習
- 5 学生の受け入れ
- 6 教員・教員組織
- 7 学生支援
- 8 教育研究等環境
- 9 社会連携・社会貢献
- 10 大学運営・財務

自己評価と  
第三者評価

評価結果は公表される

→ 社会的透明性の確保

適合・不適合判定だけでなく改善点も指摘

→ 大学改革を促す

自己評価において、大学はエビデンスを付す必要がある

## 1 理念・目的

評価の観点

評定：S・A・B・C

### 現状分析評価項目①

大学の理念・目的を適切に設定していること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

#### ＜評価の視点＞

- ・大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける大学の目的及び学部・研究科における教育研究上の目的を明らかにしているか。
- ・理念・目的を教職員及び学生に周知するとともに社会に公表している。

#### 評定基準 大学基準に照らして

S 極めて良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが卓越した水準にある。

A 良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが概ね適切である。

B 軽度な問題があり、理念・目的の実現に向けてさらなる努力が求められる。

C 重度な問題があり、理念・目的の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

第三者評価においては、よりきめ細かな評定基準が規定されている

#### 現状分析評価項目①

達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

##### <評価の視点>

- ・ 学位授与方針において、**学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか**。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。
- ・ 上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。

大学評価を通じて見出された改善事項（「改善課題」及び「是正勧告」）について、「改善報告書」の提出を求め、それをもとに大学評価後の改善状況を検討して「改善報告書に対する検討結果」を大学に通知するとともに公表する。

このようなプロセスを通じて継続的な教育改善・向上の支援を行う。

大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的の実現に向けて抜本的な改善が必要な場合は「不適合」の判定が下される。

### 「不適合」の例

**大学設置基準を満たしていない**

例) 教員数が基準を満たしていない

入試に不正があった

理事が逮捕された

不適合となつた場合でも、大学がつぶれるわけではない

- 私学助成の減額
  - 公的な競争的資金への応募資格の喪失
- などの措置が下される

ただし、不適合と判断された場合、大学は意義申し立てが可能である

また、指摘された項目のは正がなされた場合には「追評価」の申請が可能であり、「適合」判定に変わる場合もある

# 2025年1月 中央教育審議会大学分科会 高等教育の在り方に関する特別部会

## 認証評価制度の見直し

新たな評価制度では「大学の教育によって、学生の能力がどれだけ伸びたか」を明確化すべき

認証評価機関が複数あり、それぞれで評価方法が異なる  
→ 評価方法の統一（教育研究情報による定量評価など）

機関別評価 (provider level) から分野別 (subject-level) 評価へ  
→ 大学ごとの評価から、学科別評価へ

## 適合か不適合か

→ 教育の質を数段階で評価し、外部にわかりやすく公表  
例) イギリス：教育機関を金、銀、銅で格付け  
TEF (Teaching Excellence and **Student Outcomes** Framework)

## 教学監査にあたって参考すべき資料

### 2 大学ポートレート

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令

(平成22年 2010年 文部科学省令第15号)

平成23年（2011年）4月1日から施行

**大学が公表すべき情報の明確化**

- ① 大学の説明責任 (accountability)の強化
- ② 進学希望者の進路選択支援
- ③ 大学の**国際通用性** (国際的信頼性)の向上

大学改革支援・学位授与機構

大学ポートレートセンターが運営

国公私立大学の教育情報の公表

## 教学監査にあたって参考すべき資料

### 2 大学ポートレート（私学版）

日本私立学校振興・共催事業団（私学事業団）が運営

私立の大学、短期大学などが

その特色や実践している教育研究の取り組みを

進学希望者や保護者、進路指導者などに広く発信することで、各学校の魅力や強みを社会に伝える魅力発信の場として開設

大学ポートレートへの参加・公表は各大学の任意

このため、大学ポートレートへ参加していない学校の情報は公表されていない

ただし、ほとんどの私立大学は参加している

## 大学ポートレートに記載されている取組例

- |                   |                 |                  |
|-------------------|-----------------|------------------|
| ○アクティブラーニング       | ○アセスメントポリシー     | ○インターンシップ        |
| ○外国人教員雇用・派遣受入     | ○外国人留学生受入       | ○海外留学、スタディ・アブロード |
| ○外部テストの活用         | ○学生の自主活動        | ○学びの組織的な支援       |
| ○学修成果のフィードバック     | ○学修ポートフォリオ      | ○ループリック          |
| ○学生アンケートの活用       | ○学生の心身に関する支援    | ○学生寮             |
| ○学費負担の軽減          | ○課題解決型学習（PBL）   | ○学校間連携           |
| ○科目等履修制度          | ○キャリア教育         | ○教育内容の体系化とその充実   |
| ○研究施設・設備の充実       | ○高大連携プログラム      | ○サービスラーニング       |
| ○産官学連携            | ○GPAの活用         | ○資格取得(国家資格受験資格)  |
| ○社会人教育            | ○就職支援           | ○生涯学習            |
| ○少人数教育            | ○初年次教育          | ○進学支援            |
| ○成績評価の厳格な運用       | ○卒後調査の活用        | ○多様な研究内容         |
| ○ダブルディグリー         | ○地域連携           | ○中途退学防止          |
| ○TA・RA・SA・メンターの活用 | ○飛び入学・早期卒業・長期履修 | ○特色ある教育施設・設備の整備  |
| ○入学前教育            | ○ボランティア活動       | ○ラーニングコモンズ       |
| ○教養・リベラルアーツ教育     |                 |                  |

## 大学ポートレートの利点

大学のホームページでは、データが散在しているうえ  
大学に不利な情報は載っていない

- 大学ポートレートでは、共通の枠組みで情報を公表しているため  
異なる大学でも同じ定義の情報を得ることができ  
相互比較が容易となる
- 情報を開示していない場合  
その大学には開示したくない理由があるということが分かる
- 誰でもが自由に閲覧できる（会員登録不要）
- 高校生が大学を選択する際の資料として有用である

教学監査にあたって参考すべき資料

### 3 私立大学等改革総合支援事業（112億円）

未来を支える人材を育む特色ある教育研究の推進等のために  
全学的・組織的改革に取り組む私立大学を重点的に支援

特徴：調査票の点数により選定

ループリックが設定されており、自己採点で点数を確認できる

支援対象の4分野と1校あたりの年支援額

タイプ1：教育 1700万円

タイプ2：研究 2600万円

タイプ3：地域社会貢献 1100万円

タイプ4：社会実装 1400万円

令和6年 535校（短大、専門学校を含む）から申請があり、  
225校を選定

※ 選定校には一般補助の増額もある

# タイプ1 「特色ある教育の展開」項目

- |                          |                        |                |
|--------------------------|------------------------|----------------|
| 1 全学的な <b>教学マネジメント</b>   | 2 IR機能の強化              | 3 卒業時アンケート調査   |
| 4 <b>アクティブラーニング型の科目</b>  | 5 情報リテラシー科目の開講         |                |
| 6 ICTを活用した双方向型授業等        | 7 GPA制度の導入および活用        | 8 CAP制の設定      |
| 9 ティーチング・ポートフォリオの導入・活用   | 10 学生の参画促進             |                |
| 11 <b>学修成果の可視化</b> ・意見交換 | 12 学修証明のデジタル化          |                |
| 13 多面的・総合的に評価する一般選抜      | 14 記述式問題の出題            | 総合的な記述問題       |
| 15 多面的・総合的な評価および取組       | 16 アドミッション・オフィサー       |                |
| 17 数学や情報の出題              | 18 総合的な英語力の評価          | 19 多様な背景の学生の受入 |
| 20 <b>多様な背景の学生への修学支援</b> | 21 <b>高校と大学の連携強化</b>   | 22 入学者選抜の妥当性   |
| 23 IRの専門職配置・情報公表         | 24 数理・データサイエンス・AI教育    |                |
| 25 分野等を超えたカリキュラムの改善・検証   | 26 インターンシップ科目の実施       |                |
| 27 実務家教員の活用促進            | 28 <b>学修の幅を広げる教育課程</b> |                |
| 29 学事歴の柔軟化に関する取組         | 30 教育リソースの活用           | 31 外国人教員の割合    |
| 32 外国語のみの授業科目            | 33 過年度との比較             |                |

**教学運営に関して重要なキーワードが網羅されている**

## タイプ1 「特色ある教育の展開」設問例

大学におけるIR機能強化に向けた取組を実施していますか。

- |   |                            |    |
|---|----------------------------|----|
| 1 | IRの他大学等への普及に向けた取組の実績がある    | 3点 |
| 2 | IRに関する外部研修会に講師として参加した実績がある | 2点 |
| 3 | 定期的に研修を受講させており、受講した実績がある   | 1点 |
| 4 | 上記のいずれにも該当しない              | 0点 |

IR (Institutional Research) とは、大学等が学習時間や教育の成果等に関する情報収集を行い、自らの客観的な状況を分析することを指す。  
ただし、単なる入試や大学等・法人の経営に関する情報の収集・分析は該当しない

- 1の場合、大学が主催または共催する取組であること  
2の場合、自大学以外が主催・共催する研修会で講師として参加した実績があること  
3の場合、大学として研究受講を機関決定しており、教職員の受講実験があること

根拠資料：規程、開催案内、依頼文、研修報告書等

## 私立大学等改革総合支援事業の利点

調査票（ルーブリック）によって  
自分の大学の現状を把握できる

何ができるないかを把握し、大学改革につなげることができる

教職協働がうまく進んでいるかの指標となる

大学改革を進めれば、特別補助、一般補助の増額が  
獲得できる（努力成果に対する対価）

## 課題

事業に参加していない私立大学が多数ある  
(挑戦する前からあきらめている)

教学監査にあたって参考すべき資料

## 4 全国学生調査

2018年11月中教審答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」

**学修者本位の教育への転換**

(教え中心から学び中心の教育への転換)

2019年度に試行版がスタート

2025年から本格実施 (すでに4回の試行)

各大学が次のいずれかを選択

①文科省が実施するインターネット調査に参加

②大学独自の学生調査の中に全国学生調査の質問項目を設定して実施

②公表に同意した大学の回答全体の集計結果を公表

\*①②いずれも、集計基準を満たしている場合に文科省のホームページで公表する。

\*参加大学には、当該大学の学生の回答一覧や自学の分析に活用できる資料を提供する

## 教学監査にあたって参照すべき資料

### 4 全国学生調査

#### 質問項目に関しては

大学の負担を軽減し、経年比較を可能にするため、当面は原則として、第4回試行版の「選択式33問程度、自由記述1問」から変更しない。

#### 調査結果の公表や活用

##### 〈文科省による公表〉

- ①各質問項目で肯定的な回答の割合が高い大学について、学部ごとに上位から一覧化した「ポジティブリスト」を公表
- ②公表に同意した大学の回答全体の集計結果を公表

\*①②いずれも、集計基準を満たしている場合に文科省のホームページで公表する

\*参加大学には、学生の回答一覧や自学の分析に活用できる資料を提供する

##### 〈各大学による公表等〉

- ・調査結果の積極的な発信に努める。
- ・IRやFD・SD活動、自己点検・評価、教育改善での活用に努める

## 第4回施行版での設問

1. あなたが在籍する学部（学科）を選択してください。
2. 学部（学科）の分野を選択してください。（自動表示）
3. あなたの学年を選択してください。

### 問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

（選択肢：①よくあった、②ある程度あった、③あまりなかった、④なかった）

4. 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。
5. 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。
6. 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。
7. グループワークやディスカッションの機会がある。
8. 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。
9. ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

### 問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。経験

していない場合は⑤を選択してください。

（選択肢：①有用だった、②ある程度有用だった、③あまり有用ではなかった、  
④有用ではなかった、⑤経験していない）

10. インターンシップ（5日間以上）
11. 海外留学・海外研修（短期も含む）
12. 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

### 問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

(選択肢：①身に付いた、②ある程度身に付いた、③あまり身に付いていない、④身に付いていない)

- 1 3. 専門分野に関する知識・理解
- 1 4. 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観
- 1 5. 文献・資料を収集・分析する力
- 1 6. 論理的に文章を書く力
- 1 7. 人に分かりやすく話す力
- 1 8. 外国語を使う力
- 1 9. 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能
- 2 0. 問題を見つけて解決方法を考える力
- 2 1. 他者と協働する力
- 2 2. 幅広い知識、ものの見方 2 3. 異なる文化に関する知識・理解

#### 問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

(選択肢：①そう思う、②ある程度そう思う、③あまりそうは思わない、④そうは思わない)

- 24. 卒業時までに身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。
- 25. 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
- 26. 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。
- 27. 大学の学びによって成長を実感している。

#### 問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

(選択肢：①0 時間、②1-5 時間、③6-10 時間、④11-15 時間、⑤16-20 時間、⑥21-30 時間、⑦31 時間以上)

- 28. 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）
- 29. 卒業論文・卒業研究・卒業制作
- 30. 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）
- 31. 授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）
- 32. 部活動／サークル活動
- 33. アルバイト／定職

## 学生調査は、教育の質保証にとって重要である

海外では、**大学の認証評価 (accreditation)** に学生の参画が当たり前  
**高等教育質保証機関国際ネットワーク (INQAAHE)**  
のガイドラインでは学生参画がマスト

一方

日本では、教えを受ける側が教える側を評価するのはけしからんという  
発想の教員が多い

→ 授業アンケートに対しても否定的である

### 教学監査の視点

- 1 大学として全国学生調査に協力しているかどうか  
参加していない場合は、参加を促す
- 2 回収率はどの程度か  
大学として学生に回答を働きかけ、回収率を上げるよう努める
- 3 回答結果の分析を行い教学改革に利用しているか

教学監査にあたって参考すべき資料

## 5 入口と出口管理（入学者選抜と就職） 入口・中身（教育）・出口

私立大学経営 経常収支差額 = 収入 - 支出

収入の70-80%が学生納付金

定員充足が基本

2025年

私立大学の53.2%が定員割れ

2024年の59.2%からは改善

入口管理：入学志願者をいかに確保するか

入学者を選抜する前に

高校生から選抜される大学になる必要がある

# 入試における大学評価の基準

いまだに日本では偏差値が独り歩きしている  
偏差値は公的に認められた指標ではない  
全国模試を実施している大手予備校が算出

- 受験生が志望大学（学科）を登録し模試を受ける
- 入試後に合否結果を学生にヒアリングする
- 合格した学生の模試の成績から大学の偏差値を算出  
ex. 合格率50%の学生の偏差値

偏差値 BF (border free)

不合格者が少ないため、合格率50%の偏差値算出不能

入試形態が多様化する中で、偏差値の意味は薄れつつある

# 私立大学における入試の3方式

## 一般選抜

各大学が独自に行う個別試験（2～3教科）と共通テスト\*を利用したもの

\* 共通テスト: 大学入学共通テスト

## 学校推薦型選抜

出願の際に出身高校の校長の推薦が必要な入試

公募制: 出願できる高校に制限がなく、大学が定める出願条件を満たし、高校の校長の推薦があれば、誰でも受験できる

指定校制: 大学が指定した特定の高校の生徒にのみ出願資格がある

一つの高校から推薦できる人数が限られているため校内選考が実施される

## 総合型選抜

大学が求める学生像（AP: アドミッション・ポリシー）に合った人物を、面接などを通して選抜する

学力面だけでなく、高校での活動、受験生の個性や適性、意欲など総合的に人物評価を行うのが特徴

※ 海外大学では個別試験は実施しないのが一般的である

私立大学における入試

偏差値は一般選抜のみが対象

入試方式が多様化するなかで、その扱いには注意が必要である

私立大学の一般選抜では、ひとりの受験者が**複数の大学を併願する**  
**多くの合格者が上位の併願先などに抜けるため**

**定員よりもはるかに多い合格者を出す必要がある**

上位私立大学では、数多くの合格者が有名国立大学を選択

**厳格な定員管理**が要求されるため、一般選抜の定員は低下傾向にある

**志願者数**：延べ人数

ひとりの受験生が、同じ大学の複数の学部学科を受験する

**実志願者数**：併願を除いた実質的な受験者数

優秀な学生を確保するために、附属高校のレベルアップと連携を強化する大学が増えている

また、附属高校以外でも、**高大連携**により優秀な生徒を早期に確保する大学も増えている

※ 優秀な → やる気のある

## 出口管理

大学の重要な使命として

教育研究を通して人材を育成し社会に輩出する

ことが挙げられる

よって、大学の就職動向が注目される

就職率 = 就職者数 / **就職希望者数**

**実就職率** = 就職者数 / (全卒業生数 - 大学院進学者数)

※ 就職者：経常的な収入を得る仕事に就くもの

大学にとっては、**実就職率**が重要な指標

最近は、就職先のデータ開示が求められている

Cf. 教員、公務員、日経400社就職など

## 入口出口管理における監事の視点

入学者選抜（入口）・学生のキャリア選択（出口）  
も重要であるが、中身（在学時の教育）が大切

教学マネジメント（学修者本位の教育の実現）を通して

教育の質保証を確立し、有為な人材を育成することこそが重要

この実現により、結果として、学生の就職環境も向上する

さらに、大学の前向きな姿勢に触れた高校生（親や教員）から  
入学したい大学との評価を得ることができる

ただし、高大連携は今後重要となる。

## まとめ1

### 教学執行部からの視点

監事は、第三者の視点で大所高所から大学を俯瞰することができる

大学の価値は良好な教学運営によって高められる

→

**教学監査の重要性**（を教学執行部が理解する）

望ましい姿

学長として、必要な教育改革のポイントを監事に説明

「いまなにができるないか」を確認し、監事の意見を求める

教職員に対して、監事からの提言や意見を紹介し

大学として改革すべき事項の整理と、指針を示す

→ 公正不偏である監事の意見を真摯に受け止め、教学運営に提言を取り入れているという姿勢が大事

## まとめ2

### 監事からの視点

監事のミッション

教学執行部と協力して、私立大学の価値向上を実現する

基本: **教育研究の充実**

教育の質保証; 学修者本位の教育

「**学生が大学で何を学んだか**」を大切にする教育への転換

監事は、大学の執行部に対し、大学の価値向上実現のため

大学として健全な教学運営を行われているかを検証し

前向きな提言を行う

厳しい大学間競争（急激な少子化）の下で、**教学監査**は大学価値向上（あるいは、より実質的には、**私立大学の生き残り**）のために重要となる

## 教学運営に関する参考図書

- 1 大学をいかに経営するか: 村上雅人 (飛翔舎、2023)
- 2 学長リーダーシップの条件: 両角亜希子 (東信堂、2019)
- 3 教職協働はなぜ必要か: 吉川倫子 (飛翔舎、2023)
- 4 大学における教学マネジメント2.0: 大森不二雄 (東信堂、2024)
- 5 大学におけるDXとは: 村上雅人、渡辺圭祐 (飛翔舎、2025)
- 6 グローバル大学への道標: 村上雅人、小倉佑介 (飛翔舎、2025)
- 7 プロフェッショナル職員への道しるべ: 大工原孝 (飛翔舎、2023)

## 大学経営に関する参考雑誌等 (多くの大学に常備されている)

- 1 IDE現代の高等教育 (IDE大学協会)
- 2 私学経営 (私学経営研究会)
- 3 文部科学教育通信 (ジアース教育新社)
- 4 カレッジマネジメント (リクルート)
- 5 Between情報サイト (進研アド)
- 6 大学時報 (日本私立大学連盟)
- 7 教育学術新聞 (日本私立大学協会)
- 8 大学マネジメント (大学マネジメント研究会)
- 9 学校経営アカデミー (JSコーポレーション)
- 10 大学評価研究 (大学基準協会)
- 11 大学職員論叢 (大学基準協会)

※ 大学監査協会のウェブサイトも参照されたい